

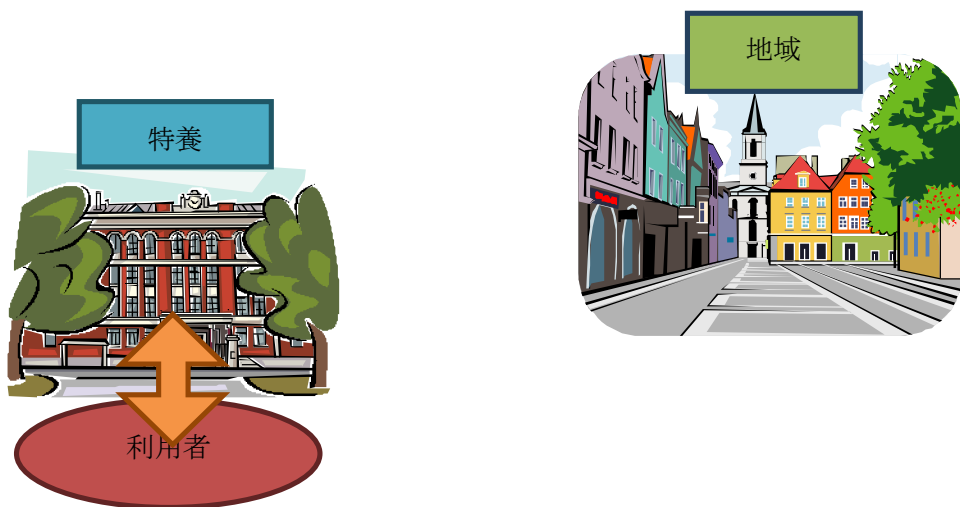
従来型特養と本事業における地域向けサービスの形態イメージ

従来型の特養では、介護を必要とする利用者と訪問者、介護従事者のみが訪れる場所となっていた。医療行為が含まれるため利用者が限定されるのは仕方ないが、同様に医療の中心である病院は近年、地域に開かれる傾向が強い（プライマリケア、介護予防診断、健康相談事業など）。

元小学校跡地という地域資源を活かし、様々な社会資産拠点にしていく。商店街、杉並区NPO、地元企業、有識者などによる永福町夢プロジェクト協議会が小学校施設の一部を使い、事業を運営。特養を地域から隔絶した場所にしないだけでなく、地域の健康増進、文化や多世代交流、社会教育の中心として活用していく。これは、病院、学校、大学に続く、「地域に開かれた特養」のモデルとなる。ここで育った知見、活動が認知症予防や次世代育成支援活動等に役立つことが期待されます。

従来型特養と地域のイメージ

従来型の特養は、地域には存在しているが利用者のみが来訪。地域との関わりは少なく、「場所」のみの扱いとなっていた。



本事業の特養と地域のイメージ

本事業では、永福町夢プロジェクト協議会（通称：夢プロ）が中心となり、元小学校であった特養の一部施設を活用。健康増進の発信基地、文化と交流のモデル、社会教育の中心として地域に密着した拠点となる。

